愛され88年、5月に幕

仙台うみの杜に動物引継ぎ

跡地 県が公募も含め検討

松島水族館

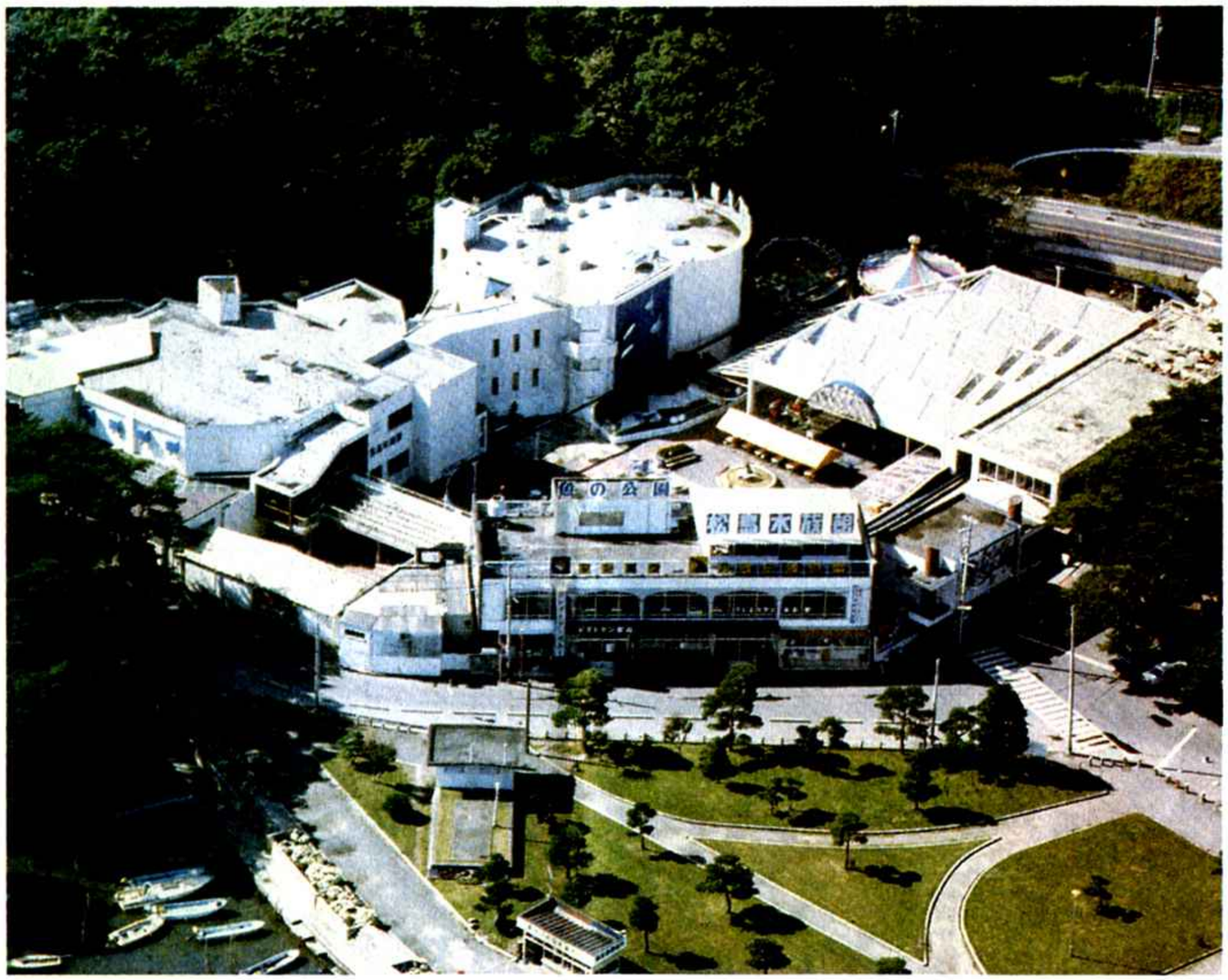
【黒川支局】松島町のマリンピア松島水族館が5月10日、閉館する。1927年の開業以来、地元の家族連れやカップルなど2000万人を超える人が訪れた。7月に仙台港近くの高砂中央公園内に開館する予定の「仙台うみの杜水族館」に職員と動物が移る見通しで、閉館後の跡地の活用方法は未定。松島の集客の一翼を担った一大施設が88年の歴史に幕を下ろす。

松島水族館は1927年4月、大河原町出身の高橋良作氏(故人)が私費を投じて開館した。当時の展示生物は約80種で、入り口には竜宮城をイメージしたとみられる「竜宮門」があった。戦時中に一時閉館したが高橋氏の家族らが50年に復活。69年から仙台急行が引き継いでいる。

マンボウでは展示飼育の世界最長記録(当時)を打ち立てたほか、ラッコ、スナメリ、ペンギン、イロワケイルカなど数々の人気者を抱えた。85年には年間入館者数が83万人を突破。最盛期には展示生物が345種1万9000点に達した。

仙台急行によると、建物の老朽化に合わせて15年ほど前から移転を検討していたという。当初は松島の隣接地を模索したが、特別名勝を管理する国との協議が整わず断念。次に仙台港周辺への自社建設を模索したが、資金調達が難航した。現在は三井物産、カメイ、横浜八景島などが出資する仙台水族館開発から飼育業務を受ける方向で協議を進めている。

現在の水族館があるのは県有地。仙台急行は、水族館閉館後も同社が引き続き借り受けて海をテーマにした社会教育施設としてリニューアルしたい考えで県に打診している。県観光課は「水族館に代わる観光の拠点が地元から求められている」とし、公募も含めて今後の活用方法を検討している。



30年前の松島水族館(同館提供)